



二松學舎大学
父母会報

平成 5 年 5 月 10 日創刊
平成 27 年 3 月 31 日発行
(第88号)

二松學舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞廣常吉先生書



卒業を祝す

父母会会長 木村 一成



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い起こせば、皆さんが入学式の年に未曾有の東日本大震災が発生しました。中洲記念講堂での入学式の様子を昨日のこのように思い出されます。あれから四年、皆さんはどのような学生生活を過ごしてこられたでしょうか。楽しいことも、苦しいこともたくさんあった四年間だったと思います。その中で「絆」と「感謝」と言う言葉をたくさん耳にしたのではないのでしょうか。助け合いながら日々生活をしていく、それはこれからの社会人として生活していくうえで、特に大切なことだと思います。人は一人では生きていけません。先輩、同僚、後輩そして家族、いつも誰かに助けられて生きているんだということを忘れない

で欲しいと思います。常に「ありがとう」と言う言葉を忘れずに過ごしてほしいと願っております。

皆さんの活躍が期待される日本の社会は、グローバル化や少子高齢化の著しい進展によって社会構造が激しく変化し、世界中で限られた資源のあり方と地球温暖化に代表される環境保護を社会として構築しなければならぬ時代を迎えています。このような時代であればこそ、皆さんには、二松學舎大学で身につけた知性が一人一人だけのものでなく、公共性を有していることをしっかりと自覚し、それを様々な場で発揮していただきたいと思えます。若くて活力に溢れた皆さんの前途は、大きな可能性に満ちています。皆さんが力を発揮してそれぞれの組織で活躍し、重要な役割を果たしながら成長されることを強く望んでいます。今年は一松學舎にとつて嬉しい話題もたくさんありました。附属高等学校野球部は夏、春と甲子園で活躍し、全国に二松學舎の名前を広めてくれました。そして昨年末には四号館も竣工し、九段で充実した学生生活が送れるよう、環境も整ってきています。卒業する皆さん、今後とも二松學舎大学に御支援のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、四年間父母会活動にご支援とご協力いただきましたご父母の皆様、本当にありがとうございました。

「良い方向を選択する力を」

理事長 水戸 英 則



ご卒業おめでとうございます。さて、皆さんは、今後生活を送る上で、全てのことは、皆さん自身が判断をして進んでいく生活になります。すなわち自己責任の下での生活が始まるわけです。従って、皆さんは、今後色々な岐路に差し掛かっ

た場合は良い方向を選択し、それを手元に積み重ねながら、人生を送っていく必要があります。作今の社会、変化のスピードが非常に速く、未来が予測できない時代です。皆さんはこの大学で専門知識、コミュニケーション能力や語学力を身に就け、やりたい分野や研究を見つけ、その道に進んでいくと思います。その中で今後は、物事を冷静に判断する力、良い方向を選択出来る

力、円滑な人間関係を造る力などを身に就けて行く必要があります。今後生活面で守るべき点を申し上げます。第一点は、健康の維持です。皆さんの長い社会生活を歩き通すには、健康でなければなりません。健康は自己管理能力の問題です。読書、音楽、スポーツその他気分転換を身に付け、仕事上の心理的な疲労を蓄積させないことが肝要です。第二点は、相手の立場を考えて行動することです。弘毅の精神をもって、円滑な人間関係を造り上げて行くことが必要です。第三点は、自分自身を常日頃磨く精神を忘れないことです。仕事を通

じ、専門家になること、次に、仕事以外の分野に興味を持ち視野を広げるなど自分を深め、人間の幅を広げる努力をし続けていくことです。以上の3点は、自己責任時代の生活を送る上での処方箋です。皆さんは、これらを念頭に置いて、自立した生活を構築し、そうした生活や社会的な活動の中で、皆さん自身が良い方向を選択し、よりよい社会を築いていく人材として活躍することを願って、皆さんへ贈る言葉とします。

「最後に笑う者が最もよく笑う」

学長 渡辺 和 則



皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さま、ご子弟のご卒業を心よりお慶び申し上げます。また二松學舎大学の教育研究へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。さて、皆さんは学生生活を終えて、

黒板の前から離れて実社会と呼ばれるところに入っていくわけです。喩言で言えば、いままで皆さんは専属コーチのいるマラソンランナーであり、ただ先生や友人の指示や助言のままに走り続けられ、それでよかったのです。でも今日からは専属コーチを持たないマラソンランナーです。一人の社会人として、大人として、相應の責任を背負って生きていかななくてはなりません。気持ちに迷いが生じ、意志が揺らぎ、前に進む力が

出ないことがあるかもしれません。いま自分がやっていることやこれからやろうとしていることは、正しいのか、そうでないのか、これからはそうした判断を自分で下さなくてはなりません。しかしそれは大変に難しいことです。どうすればよいのでしょうか。それを考えるヒントが経済学者のアダム・スミス（1723-1790年）の学説の中に見えます。スミスは、私たちの胸中には客観的に自分を見ているもう一人の自分（胸中の公平な観察者）が居り、それと常に対話を行い、真摯に耳順することがよい、またそうすることが誠実ということだと言っています。つまり、誠実とは胸中のもう一人の自分を欺かないということです。

誠実な振る舞いや仕事が正当に評価されず、「天道是か非か」という悲痛な叫びに通じる思いを抱くこともたまにはあるでしょう。がしかし、「人は人、吾は吾、吾は誠を尽くすより外なし」。「天は見えないようにやっばり天は見ている」。それを信じて歩んで行くことも決して悪くはありません。諺に「最後に笑う者が最もよく笑う」というのがあります。最後に笑うのは誠実な人です。皆さんは胸中のもう一人の自分と常に対話しながら、自分の能力に応じて自分のペースで歩んで行く誠実な人であっていただきたい。そして健やかな体と康らかな心を持って、活躍されることを祈念しております。

自分を信じることで優しさについて

文学部長 江藤 茂博



日々のな ある。

かでのちい さな喜びも あれば苦 難もあり、 ちよつとし

た出来事が自分を変えることもあ
る。誰もが強いられた道を歩み、複
雑に接触しているのだ。人生の謎な
んで簡単に解けやしない。些細なこ
とで人生が大きく変わるのは事実で

ない。打算を捨てることで、もつと
も上手く生き抜くことができるはず
だ。また、価値があると思われてい
ることを疑いなさい。そして、誰も
が疑うことを、一度くらいは信じて
みよう。占いを信じるよりは、自分
を信じなさい。そして、どんな時も
与えられた人生を誠実に生きなさ
い。
もつとも、こうしてえらそうに並
べてはみたが、私に友達という人物
がいるかどうか自信は無い。まして
お金はたいして手にしていないし、
ちつとも上手く生きてはいない。加
えて、価値があると思われているこ
とに、しばしば心が揺らぐ。みんな

ご卒業おめでとうございます

国際政治経済学部長 菅原 淳子



卒業生の 皆さん、お めでとうご ざいます。 在学中の 数々の思い

出を胸に、二松学舎大学を巣立ち、新
たな人生への第一歩を踏み出そうと
していらつしやる皆さん、皆さんの
前にはさまざまな可能性を秘めた道

の中ですさまざな問題や困難に直面
した時、自らの力で解決方法を見出
すことを求められることと思います。
そこで問われてくるのは、主体的に
取り組む力、自ら考える力だと思い
ます。現代のように情報が溢れ、社
会が急速に変化している時代の中で、
皆さんには自分を見失うことなく、
周囲に振り回されることなく的確に
判断を下していけるよう、努力してい
ただきたいと思っております。

がダメだというなら、つい関心を向
けなくなってしまう。もちろん、そ
のくせ後で後悔することもしばしば
だ。つまりは、ちつとも自分を信じ
きれないのだ。こうした弁解の後に、
ひとつだけ、こんな私でも大切だと
信じていることがある。それは、恥
を知るといことだ。何が恥である
かを知り、自分にとって恥じるよう
な生き方をしないことだ。そのとき
に自分を信じられ、本当の優しさが
生まれる。私は、君たちが優しい社
会をつくってくれることを信じる。
人としての自覚と責任を持って、社
会に貢献していかれることを期待い
たします。
そして皆さん、どうぞ人生を長い
スパンで考えてください。社会に出
てから、再び学びなおすことも可能で
す。さらにできれば、「生涯を通して
学ぶ」という姿勢を持っていただき
たいと思います。
さまざま可能性を持つていらつ
しやる皆さんの前途が、希望にあふ
れていることを祈って、贈る言葉と
いたします。

古くから伝えられている物事を大切に
して下さい。でもそれを無意味に尊ばな
いでも下さい。そこに息を吹き込んで命を
与えて下さい。きっとあなりの力になり
ます。
中所宜夫

果報は

寝て待て

松本弘毅

「おもしろい」を

大切に

木林野

崇

他人と過去は変えられない
自分と未来は変えられる
(エリック・バーン) 林謙太郎

「何も無いところに
光を見いだすちかからの源は

たったひとつしかない。
(瀧下藤瑞道「宝箱」より)

荒井裕樹

文学部

国文学科の先生方から饒の言葉を頂きました

万事塞翁が馬
くじけずに前へ進みましょう。

増田 裕美子

苦あれば楽あり

中川 桂

積善乃

余慶

大松孝太郎

「もはやそれは、新しい物語り、
別の長い物語りでなければならぬ。」
(大西巨人「神聖喜劇」)

山口直孝

「憂きことに逢うは
めでたきことに逢うより
めでたし」 露伴

稲田篤信

信頼

塩田今日子

笑う門には福来たり

小山 聡子

皆さんの御活躍と御多幸が
母校にとって何よりの支えです。
皆さんのホームグラウンドで
あり続けるために、今後も尽カ
します。
五月女肇志

花はうるわし

これと
青春のうけ花より
更にうるわし

渡邊了好

面白く。
瀧田 浩

Way to go!
白井雅彦

「まがいもの」を見抜く目を!!
身を守るためにもね。

島田泰子

吉報を待つことが
大学祭で待つことが
山崎正伸

たまには近況報告でも送って
下さい。僕も必ず返事を書き
ます。

五井 信

やさしく、強く、
(糸井重里)

学生時代の思い出を大切に、

谷口 貢

謙卑

祈禱

清貧

是無言

芥川哲世

自分の人生を自分でデザインできるように
人生をおくって下さい。

松本健太郎

御多幸をお祈り申し上げます。

多田 一佳



卒業論文を
書いていた日々のことを
書きあげた日のことを
忘れずにね

小方伴子

清
道

真澤浩一

不憤不啓 不悻不發

町泉寿郎

みなさんとの出念に
感謝します。
楽しい人生を！

改田明子

文学部

中国文学科・教職課程の先生方から饒の言葉を頂きました

青春受謝
白日昭只

牧角悦子

君子和而不同

田中正樹

吃得苦中苦

方為人上人

逆風は、振り返れば追い風になる

伊藤晋太郎

永井鉄郎

Here is hoping that you all have a very successful life in business or in any endeavor you choose to follow.
 Bonne chance et felicitations! Auguri e tante belle cose per voi tutti!
 Congratulations and all the best for your future
 A.B. FALVO

御卒業 おめでとうございます。

早寝・早起き！

社会人の第一歩は

外形を整えることから

佐藤 晋

健康が何よりも大事です。

無理は林示物

古賀先生

こ水からは、全てが

自己責任。

染谷 武彦

健康第一。気力充実。

田端 克至

飯田 幸裕

かんばう下さぬ。

白石 まりも

御卒業おめでとうございます

ごびいます

岩田 幸詠

国際政治経済学部

国際政治経済学科の先生方から
 饒の言葉を頂きました

どんなときにも

明かるく。幸福な人生を

生み出すのは皆さん自身。

千鳥 茂樹

これからが本当の勝負を
 きめよう人生のスタートです。

河原田 有一

人生は邂逅である

渡辺 和則

夜空をみたり
 思い出し下す。

咲川 可央子

助く

星 紅花

天は自から助くる者よ

岩崎 愛一

ご卒業おめでとうございます。

時間クニトピアを一緒にすごしました。

法 あり

共に旅をつづけましょう。

高野 和基

土屋 茂

着実な準備が勝敗を分けます

努力を惜みず活躍して下さい

日常の何気ない営みを丁寧に

中山 政義

押野 洋



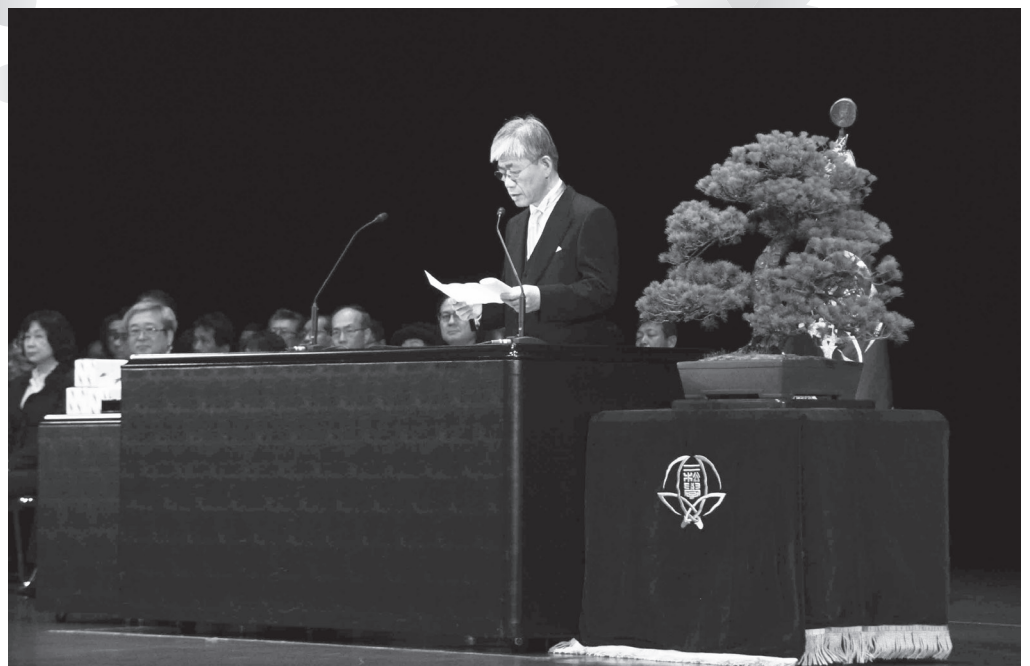
平成26年度 卒業式

平成二十七年三月十六日(月)、中野サンプラザホールにおいて、平成二十六年二松學舎大学学位記授与式(卒業式)が挙行されました。着飾った卒業生たちが会場前に集合し、友達同士や親子で写真を撮る風景があちらこちらで見られました。

午前九時三十分、開式宣言に始まり、国歌斉唱、学務局長による学事報告に続いて、文学部卒業生に学士(文学)、国際政治経済学部卒業生に学士(国際政治経済)の学位記・卒業証書が授与されました。国文学科・中国文学科・国際政治経済学科それぞれの成績最優秀者には、中洲賞として賞状と賞品が授与され、その後、教育職員免許状が伝達されました。

続いて渡辺和則学長の告示、水戸英則理事長・神津賢一郎松苓会長の祝辞、祝電披露、送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と進行し、厳粛のうちに卒業式は終了しました。

卒業生の皆さん、ぜひ自分の夢を大切に
にして粘り強く仕事に取り組み、社会人
として活躍されることを願っております。





平成26年度
卒業パーティー
in
帝国ホテル
孔雀東の間

平成27年3月16日(月)、午後2時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、平成26年度卒業パーティーが開催されました。

パーティー会場ではゼミの先生を囲んでの写真撮影や友との語らいの楽しい時間が瞬く間に過ぎ、終了後は立ち去りがたく別れを惜しんでいる姿が見られました。





卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませて
いる学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及
び感想等を語っていただきました。

ちまびなな出会いに感謝して



文学部国文学科

今井里美

振り返れば四年前、一年間の浪人生活を終え、第一志望が叶わず、努力しても力が及ばなかった悔しい気持ちでいっぱいでした。そんな中で自分の夢である国語科の教員に最終的になる事が出来たら、国語を教える際に自分の武器となる専門分野があったら、と思い、二松學舎大学に入学しました。

私の大学生活は、国語科の教員になる、という夢の実現に向けて、かけがえのない仲間との出会いと、この先生の下で学び、究めたい、と思える先生との出会いがあり、大変充実したものになりました。

一年次から国語科教員養成特別コースに所属し、同じ国語科の教員になるという夢を持った仲間と共に

ても濃い二年間となりました。ゼミの仲間と出会って、それぞれが、それぞれの目標や夢の実現に向かって努力する姿に刺激を受けました。特に、同じ教職を目指す仲間と一緒に

空き時間に教員採用試験に向けて勉強したり、情報交換をしたりと、時間を共に過ごしていくうちに、ひとりじゃないんだ、という心強さが、苦しいとき、つらいときに支えとなりました。

一方で、『枕草子』の本文の解釈になると、お互い忌憚なく意見を言い合い、何時間も学食やラウンジでレジュメを作るために話し合いを重ねました。ゼミの活動として、創縁祭にあげたこやき屋を出店する際には、ゼミ生の中で「報・連・相」が不足していて、準備が思うように進まず、創縁祭が近づいてやつと全員で話し合いをし、当日、完了した瞬間に皆で喜び合った事が、とても印象に残っています。原ゼミに入ってから勉強や研究だけではなく、このように行事に参加した経験は、この先社会に出た際に、自分の自信に繋がる、と確信しています。

ゼミ合宿で京都御所を訪れた際に、『枕草子』に出てくる清涼殿の丑寅の隅を間近で見ることが出来、普段学んでいる『枕草子』の世界に近づいたような心地を味わった事が忘

れられず、卒論では、『枕草子』の中で清涼殿の丑寅の隅に飾られたと描かれる桜をはじめ、『枕草子』の春の描写の中で、主に桃、柳、桜の三種の植物に焦点をあてて追究しました。自分の興味のある事、好きな事にとことん打ち込んだ卒論となりました。

ゼミや授業を通して、文学は千年以上前から、遺し伝えようとした人がいたからこそ、私たちが今、このように手に取って親しむ事が出来るのだという事を感じました。この事を国語の授業で生徒に伝える事が出来たらと思います。

様々な事があつた激動の四年間でした。今の私がかここにあるのは、一番近くで、片道三時間通学を朝早くから夜遅くまで、支えてくれた家族や、原先生をはじめ教職の先生方等たくさんの方々に導いて頂いた事、また、ゼミの仲間、教職を目指す友達、ここに書ききれない程たくさんの方々が大変お世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

四月から夢が叶い、私は千葉県で教員になります。これから様々な人と出会い、人として成長するとともに、生徒を導き、明るく生徒の行き先を照らす事のできる教員になれるよう、精一杯努力していきます。

充実した四年間



文学部中国文学科

藪本 愛 莉

まずは卒業が決定し、ほっとしています。このように無事に卒業することができるとは、両親の助言・援助、教職員の方々やのご支援・ご指導があったからこそです。

私は、高校時代から中国語を学び始めました。この二松學舎大学を受験し、入学したのも、中国語や中国の文学を学び続けたいという願いがあったからです。その願いは、この四年の間に叶えられたと思います。しかし、まだまだこれから自分が学ぶべき事は無限にあるということをお忘れずにいたいと決心しています。

私にとって、この四年間はあつという間に過ぎたように感じられ、入学当時の事をまるで昨日の事のように思い出すことができます。

入学した頃は、新しい事に期待する気持ちもありましたが、高校時代

とはがらりと変わった環境に対する不安の気持ちも大きかったように記憶しています。校則等の縛りも大幅に緩和されますが、その一方で、大学では時間割を自分で組み立てなければなりません。自由ということは、自分で行動し、自分で責任を持たなければならぬということであると実感しました。わからない事だらけで戸惑ったのも、今では良い思い出です。二松學舎大学では、一年次生の全員がクラス分けされる基礎ゼミナールで、大学生としての基礎的な知識を教えていただくことができます。そこで身に着けた知識は、大学生活の中で躓きがちな箇所や、たびたび大きな助けとなりました。

ゼミナールでは、老舎や張承志の文章を翻訳しながら中国の近現代文学を学びました。老舎の文章は読みやすく、中国語の基本的な文法を理解することができました。一方、張承志の文章は特に難しく、最初は苦戦しましたが、必死になつて取り組むうちに、すらすらと訳せるようになったことに気がつき、自らの成長を感じました。

四年次の卒業研究では、中国近現代の女流作家・謝冰心の作品をテーマとして、翻訳を完成させました。学内の図書館の蔵書が充実しており、様々な資料を閲覧し、参考にすることができました。これまでの大学での学びの集大成ということを常に意識しながら、原文を精読し、じっくりと訳文の推敲を重ねました。これから卒業研究に取り掛かる後輩の皆さんにも、これまで学んだことの集大成となるような卒業研究を仕上げてほしいと思います。そのために、普段からの学習にもその意識を向けていてほしいと考えています。

今、こうして大学生活を振り返ってみると、学習面においても、それ以外の場面においても、委屈を感じたことがほとんど無かったように感じます。それは、まさに同級生や先輩後輩の皆さんと切磋琢磨し合えたおかげであり、二松學舎大学の充実した環境のおかげでもあります。二松學舎は、真面目な学生が多いと言われているようですが、まさにその通りで、共に学ぶ友人たちの存在は、

いつも励みになっていました。またキャンパスが都心にあり、アクセスも良く、授業の空き時間には遊びに出かけることもできました。学内から出なくても、キャンパス内には落ち着いて自習などをする事ができる場所がありました。このように考えてみると、やはり自分がとても恵まれた環境にあったということを実感します。

卒業後は、学生時代の思い出を大切にしながらも、気持ちを切り替えて、社会人としての自覚を持ち、これからの人生を歩んでゆきたいと思っています。

最後になりましたが、教職員の方々や父母の皆様へ、これまで様々な面でお世話になったことを、深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



感謝を胸に



国際政治経済学部

成田 知恵子

私が二松學舎大学に入学したきっかけは、ユニセフ親善大使をされている黒柳徹子さんの本です。同じ地球上でこれほどまでに飢餓や戦火・貧困に苦しんでいる人々がいると知り、衝撃を受けると共に、どうして戦争は起こるのか、国際社会の政治や経済、歴史はどう絡み合っているのかなど様々なことを知りたいという思いが強くなり、政治・経済・法学など広く学べる本学へ入学いたしました。

入学したての頃、大学生活は四年間もあるのだから卒業なんてずっと先のことだと思っていました。が、あつという間に過ぎていったように感じます。

それは様々な講義が本当に充実したものでしたからです。

例えば国際関係入門では、第二次世界大戦に対する国際・国家・個人

という三つのレベルからの分析、国際関係論ではリアリズムとリベリズム・安全保障のジレンマについても取り上げられなかった深い部分を詳しく学ぶことができ、それはとても嬉しいことでした。そして特に国際機構論での、他国の人々が大規模な迫害を受けている際、国際社会は軍事力の介入を含む人道的介入をすべきか、そしてそれは本当に「正義」といえるのかという問題が非常に興味深かったです。

三年次・四年次には押野先生のゼミナールに所属いたしました。ドイツに関する政治・経済・教育・文化などを学習しつつ、自分の興味のあるテーマについて発表し質疑応答を行うという事は、本当に貴重な経験だったと思います。人前でわかりやすく、かつ興味を持って頂けるよ

う工夫しながら発表する能力は社会へ出る上でも必要不可欠になると思いますし、自分では気付けなかった点を指摘して頂けることも有難かったです。またゼミ生の発表を聞くことでさらに興味が広がり、良い刺激となりました。なにより押野先生の一人一人のゼミ生をしっかりとみて親身になって下さる人柄もあって、ゼミ全体がまとまっており、講義に参加することが楽しみでした。そのため就職活動で辛い時も、ゼミへ行くとき前向きな気持ちになることができました。本当に押野ゼミに所属して良かったと思います。

さらに都心にありながら自然も多く、桜や銀杏など季節の移ろいを感じる事が出来、また交通の便が良いため、美術館で様々な作品を鑑賞し感性を磨くこともできるなど、恵まれた環境にあつたと思います。

そして自身が大きく変わったと思うことは、大学へ入学する前は義務のような気持ちで勉強していましたが、大学へ進学してからは、自主勉強の際にただ書くだけでは覚えにくく、文章を読みあげながら様々な色のペンを使って書いて暗記したり、また日本史概論で発表のため「江戸の食」について調べた時には個人的に江戸東京博物館に行くなど、自ら工夫しながら学ぶよ

うになった点です。今後も難しく思うに思えることに対して、自ら興味を見出し工夫することを楽しみつつ乗り越えて行きたいと思います。

講義でわからないところを質問に行くと、理解できるまで真剣に教えて下さった先生方、困った時親身になって相談にのって下さったキャリアセンタ―や教学事務部の方々など、「学びたい」という思いをサポートしてくださった多くの方々この場を借りて、深く御礼申し上げます。また、楽しいこと苦しいことも共有し切磋琢磨しあつてきた友人たち、大学進学を見守り、いつも応援してくれた両親にも心から感謝しております。

これから社会へ出ていく上で不安もたくさんありますが、大学生活で身に付けた工夫を凝らし楽しみながら学ぶ姿勢を大切に、積極的に様々な業務を覚え、社会に貢献できる人間になりたいと思います。また、チャレンジしたいこともたくさんあるので後悔のないようどんどん挑戦してゆきたいと思います。





文学部 教授
島田 泰子

私の母校は、日本に二つしかない国立女子大学のひとつでした。教員養成の長い歴史。こじんまりと小規模、知名度は控え目。生真面目なトーン、落ち着いた学風…こう振り返ると、ニシヨウにどこか似ているような気がします。ただ、のどかな古都奈良の街並みに抱かれた母校には、重要文化財に指定された建物

や、キャンパス内を散歩する鹿たちなど、独特の風景もありました。

そんな環境で過ごした学生生活は、あらゆる意味で、私にとつて「原点」です。一・二年次のうちはサークル活動を楽しんだりいろいろなアルバイトに精を出したり。三年次に専門分野が定まってきたからは、共同研究室に通い詰め、次々と当番が回ってくる「演習」科目の発表準備に追われる日々に。研究の面白さに目覚めて、学部生ながら研究会に顔を出したり、大学院への進学を考える

ようになったりしたのもその頃です。妥協を一切しない教授陣に容赦なく鍛えられることで身についたのは、学問的な意味での高度な専門性だけではありません。ものごとを大局的に眺めて本質的な構造を見抜く、俯瞰的・鳥瞰的まなざし。逆に地をほう虫のような、微に入り細に穿ち徹底的に事実を究明する、愚直かつ執拗な探究心。そして、虫になぞらえて

究の道に進まなくても、人が世の中で生きていくために、実はひそかにとても重要なことです。人文系の学問が「役に立たない」なんて、とんでもない！どんなことでも驚きをもって発見し（人文学の場合は「再」発見も多い）、それを意欲的に発信する。学生諸君に二松學舎大学での学びを通じて身につけて欲しいといつも望むのは、そういう着眼と発想の「底力」。有意義な学生生活を経て、豊かな人生を…と願っています。



国際政治経済学部
専任講師
手賀 裕輔

私の学生時代は平凡なものだった。周りの優秀な「意識の高い」学生たちとは異なり、何か特別なことをするわけでもない、ごく普通の学生であった。ただ、そんな私でも心に残った数冊の本がある。それを紹介することで、学生時代の私について書いてみたい。

大学生の頃、一体自分はこの先の人生をどうすればよいのだろうか、という漠然とした不安が、時々思い出したように頭をもたげる時があった。おそらく暇だからそのようなことを考えたのだろうか、そんな時手にとったのが、夏目漱石『私の個人主義』であった。

ここで漱石は、何かをしなければならぬが、何をしたらよいかわからず、悶々と悩んでいたが、「自己本位」という境地に達し、これを克服したという。自己本位とは、他人の基準ではなく、自分の頭で物事を考え、一つのことを究めることで、真の満足と自信

が得られるという考えであった。この本を読み、自分も何か打ち込めるものを探そうと強く思った。ただし、そうは言っても人生とは思いつ通りにはならず、大変なこともある。それを教えてくれたのが、井上靖『おろしや国酔夢譚』であった。江戸時代の商人大黒屋光太夫は、伊勢から江戸へと向かう途中で船が遭難し、アラスカ沖へと流れつく。一時は絶望した光太夫一行であるが、何としても日本に帰るために、露都サシクトペテルブルグへと向かう。

私の学生時代

【平成二十六年卒業生の「父母の皆様へ」】

卒業生のご父母の皆様におかれましては、ご子息ご令嬢のご卒業を心よりお喜び申し上げます。そして、卒業生の皆様におかれましては、それぞれの進路におきまして、更なる成長と活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

また、卒業後におきましても就職に関する相談等（電話・メール可）は、随時受け付けておりますので、いつでもご連絡ください。

【平成二十七年年度を迎えるにあたって】

さて、平成二十七年年度の就職活動は、三月一日に企業の広報活動が解禁となり、各所で合同企業説明会等が開催されているところです。そうした中、本学でも二月中に、「合同企業説明会ガイダンス・就職活動出陣式」と題して、合同企業説明会に参加するための準備、心構え等をはじめ、これから始まる就職活動に向けてのガイダンス＝出陣式を学長列席のもと、開催いたしました。その際、学長から、「就職活動中は、困難な事があるが、信念を持って就職活動に臨んでほしい」との応援メッセージをいただきました。そしてこの出陣式を経て本学独自の合同企業説明会、「創縁会」（三月三日～三月十三日 於・九段キャンパス）並びに「就勝2016・企業研究セミナー」（三月二十六日 於・ホテルグランドパレス）を開催いたしました。いずれの会も学生達の積極的な参加により、盛会のうちに終了することができました。

このようにして新四年次生の就職活動は、名実ともに始まりを迎えたところであります。

しかしながら、新四年次生全員がこのようなスタートに踏み切れた訳ではありません。様々な事情により、未だ就職活動に取り掛かれていない学生も少なからずおります。たとえば本学では、例年十月から十一月にかけて、三年次生全員対象に、卒業後の進路についての個人面談を実施しておりますが、未だにこの個人面談を受けていないキャリアセンターに来たことのない学生もいます。今からでも結構ですので、是非ともキャリアセンターへ行くよう、ご家庭でもご指導いただければ幸甚に存じます。この個人面談は、大学卒業後の進路全般に関する事を確認するためのものなので、例えば「公務員を目指しているので民間企業への就職活動は考えていない」或いは「大学院への進学を目指している」等といった、民間企業以外の進路希望であっても、キャリアセンターへ行き、面談を受けるようご指導くださいますよう、重ねてのお願いでございますがよろしくお願いたします。

さて、ご存知の通り、就職活動の日程が、平成二十七年年度から変更となり、企業による採用選考活動は八月一日解禁となりますが、必ずしも全ての

キャリアセンターだより

企業が八月から採用選考活動を始めるとは限りません。むしろ年度が明けると四月に入るや、採用選考を開始しゴールデンウィーク明け頃には内々定を出す、という例年並みの動き方をする企業も大変多くあるという情報も各所からいただいております。これは、新しい就職活動についての取り決め「採用選考活動に関する指針」は日本経済団体連合会（経団連）によるものなので、経団連に加盟していない企業や外資系

企業はこの指針の対象とならないため、この指針に束縛されることなく採用選考活動を行なう企業があるとということです。従って学生の側も八月まで待つていては、取り返しのつかないことになりかねませんので、採用選考活動も既に始まっているんだ、という認識のもとに就職活動に臨んでいただきたいと思います。私共も、学生一人一人に対して、しっかりと支援して参りますので、ご協力の程よろしくお願いたします。

【平成二十七年年度就職支援活動】

ここで、本年度の就職支援活動について、今後の予定をご案内します。まだ詳細な日程は決まっておりますので決定次第、学生を介してご案内いたします。

まず四年次生対象には、学内合同企業説明会の開催のほか、活動中の学生

への個別相談、希望により模擬面接の実施等、随時受け付けておりますので、キャリアセンターを利用するようご家庭でもご指導くださいますようお願い申し上げます。また三年次生に対しては、個人面談（全員対象です）や、授業形式による「就職活動特別講座・キャリアゼミ」をはじめとした各種講座等を実施しますので、是非ともご利用ください。また、平成二十五年年度から開講している公務員試験準備講座（有料講座・二年次生対象）、更には昨年度より開講した公務員試験対策講座（有料講座・三年次生対象）も引き続き開講しますので、公務員希望者は是非とも受講してください。なお、一・二年次生につきましても、就職や卒業後の進路についての相談や、各種検定試験の実施等、行なって参りますので是非ともキャリアセンターを利用するよう、お伝えくださいますようよろしくお願い申し上げます。また、三年次生のご父母の皆様には、「ユニキャリアマガジン・保護者編」という就職ガイドブックを作成し、学生用の資料と併せてお届けしたところですが、ご一読いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、平成二十六年度も父母会からのご支援によりキャリアカウンセラーの配置をはじめ、日本語能力検定試験等を実施して参りました。この場をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

短期海外語学研修 参加学生募集のご案内

オーストラリア屈指の名門大学である

クイーンズランド大学(ブリスベン市)附属語学教育機関における本研修は、ホストファミリーや現地大学生とのコミュニケーションを重視した、本学学生のための特別プログラムです。ホームステイでは、現地の一般家庭に家族の一員として滞在することで、日本の生活習慣や文化との違いを肌で実感します。英語授業では、プレゼンテーションや現地大学生へのインタビュウ等で実践的な英会話に取り組み、教室内外での様々なアクティビティでは、現地大学生との交流に加え、経済・文化に等に関するゲスト講義、現地を代表する国立公園や動植物園の見学等を通して、オーストラリア固有の豊かな自然に触れ、多民族社会への理解を深めることができます。本学の専任教員が全日程を引率するので、安心のサポート体制です。これまで学んできた英語の力を実生活で試し、多文化社会への柔軟性を磨ける、この機会を是非活かして、視

今年で十九回目を数える本研修は、中国の最高学府である北京大学での語学研修を通して実践的な中国語能力と、中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした二松学舎大学独自のプログラムです。北京大学講師のきめ細やかな指導を受けながら、語学のブラッシュアップを図ると共に、中国歴史文化講座、名所旧跡の参観や京劇、雑技鑑賞などの中国文化に触れることができます。目覚ましい発展を遂げ



野を広げ新しいことに挑戦してください。

期 間：二〇一五年八月八日(土)

～八月三〇日(日)

二十泊二十三日

研修大学：クイーンズランド大学

(附属語学教育機関(UETEJO))

研修費用：五十万円前後

募集人員：二〇名(最少催行人員十二名)

問合せ先：二松學舎大学国際交流センター

〇三―三三―六一―五七五一



る中国の首都・北京で、これまで学んできた中国語を試し、文章や映像ではわからない生の中国を感じ、中国に対する理解を深めることができます。添乗員付で、本学の専任教員が全日程を引率するため、安心して研修に集中できるこの機会を是非ご活用下さい。

期 間：二〇一五年八月六日(木)

～八月二十六日(水)

二十泊二十一日

研修大学：北京大学

(受入機関：北京大学歴史学系)

研修費用：四十万円前後

募集人員：二十名(最少催行人員十五名)

問合せ先：二松學舎大学国際交流センター

〇三―三三―六一―五七五一

学生相談室では、相談室を利用する学生に限らず、学生全体の様子を時代背景と合わせて理解することにも努めたいと考えています。現代の大学生がどのような環境に置かれどのような環境に感じているのか、情報を発信することでより広い意味での学生支援を目指しています。

例えば、近年のIT機器の発達によって私達の生活

は大きく変化しています。スマートフォンやタブレット端末が普及してからは、インターネット通信がいつでも可能になり、長時間利用する人が増えていきます。学生の間でも、「スマホ」を手放せないということが当たり前になっていきます。メールやSNS、ブログや動画の閲覧など、いつの間にか何時間も費やしてしまうことがあるようです。また、友人関係に不安を抱きやすい年代であることも重なり、友人からの返信が遅かったり素っ気なかったりすると不安が高まり、気付けばスマホばかり気にしているということも多く見受けられます。あるいは、不安を紛らわす

学 生 相 談 室

だ よ り 88

カウンセラー **油谷 理歌**

めに熱中することもあります。大學生は、時間の調整に融通がききやすく自由な時間を確保しやすいため、制限をつけることが難しいです。特に一人暮らしをしている場合は、他者から干渉されることなく利用できるため、深刻化する場合があります。もちろん、インターネットを上手く活用することによって、興味の幅や交友関係を広げ、学生生活を豊かにすることもできます。しかし、インターネットを利用していないとイライラしたり、深夜遅くまで続けたり、友人や家族と過ごすよりも優先したりしている場合、依存の危険があります。他に、遅刻や欠席が増え、成績が下がったり、心身に不調が現れたり様々です。まずは、それらのサインに早めに気付くことが大切です。どのように制限するかは、本人の意思を尊重しながら、話し合うことが必要です。学生相談室で対処法を話し合うこともできますので、気軽にご相談下さい。

付ければスマホばかり気にしているということも多く見受けられます。あるいは、不安を紛らわす

平成27年度二松學舎大学日程表

年	月	日	月	日	日	程	年	月	日	月	日	日	程		
平成27年	3	27	~	4	4	ガイダンス	平成27年	9	22				(国民の休日)：授業実施		
	4	6				入学式		9	23					(秋分の日)：授業実施	
	4	7				春セメスター授業開始		9	30					春セメスター学位記授与式	
	4	上旬				新入生歓迎式典		10	10					(創立記念日)：授業実施	
	4	20				前期授業料納入期限		10	13					(体育の日)：授業実施	
	4	29				(昭和の日)：授業実施		10	20					後期授業料納入期限	
	5	4				(みどりの日)：授業実施		10	31					学園祭準備、休講	
	5	7				全学休講		11	1	~	11	2			学園祭(2日は休講)
	5	23				父母会定期総会		11	23						(勤労感謝の日)：授業実施
	5	下旬				定期学生総会		12	23						(天皇誕生日)：月曜日の授業実施
	6	20	~	6	21	文化祭(九段)		12	25						補講日
	6	27	~	6	28	体育祭(柏)		12	26	~	1	7			冬期休業期間
	6	下旬				防災避難訓練		1	8						授業再開
	7	17	~	7	31	試験期間 <small>(定期試験期間を 含む12日間)</small>		1	16	~	1	17			センター入試(14~16日は休講)
	7	20				(海の日)：授業実施		1	18	~	1	30			試験期間 <small>(定期試験期間を 含む12日間)</small>
	7	23				春セメスター授業終了		1	23						秋セメスター授業終了
	7	24				補講日		2	8	~	2	9			卒業研究面接試問(文学部)
	8	1	~	9	18	夏期休業期間		2	12	~	2	13			追試験
	8	11	~	8	12	追試験		3	初旬						卒業発表
9	7	~	9	10	ゼミ合宿期間	3	中旬						ゼミ登録許可者発表(文学部) 進級者発表(文学部・国際政経)		
9	19				秋セメスター授業開始	3	16						学位記授与式(卒業式)		
9	21				(敬老の日)：授業実施										

学生顕彰報告

団体

書道部

第99回全国学生書教展
団体優秀賞

個人

佐藤 優弘さん

第31回読売書法展

入選

武内 すすさん

第31回読売書法展

入選

竹下 友崇さん

第31回読売書法展

入選

伊藤 華子さん

第66回毎日書道展近代詩文書部

入選

渡邊 優さん

第66回毎日書法展 U23大字書部

入選

中川 清楓さん

第43回全書芸展

佳作

酒井 麻衣さん

第43回全書芸展

佳作

江良 衣瑞望さん

第43回全書芸展

推選

吉田 直生さん

東都大学軟式野球秋季リーグ戦

ベストナイン(三塁手)

林 京佑さん

東都大学軟式野球秋季リーグ戦

ベストナイン(外野手)
山本 将好さん

東都大学軟式野球秋季リーグ戦
ベストナイン(盗塁王)

上原 豊大さん

東都大学軟式野球秋季リーグ戦
ベストナイン(捕手)

畑野 ゆかりさん

第21回よませ全国学生スキーチャンピオンシップ大会
女子大回転新人の部第4位

課外活動団体助成報告

狂言研究会

「第35回自演会」

学外発表会ポスター印刷費助成

学外発表会会場借用費助成

茶道部

「卒業記念茶会」

学外発表会会場借用費助成

コール・エコーズ

「第47回定期演奏会」

学外発表会会場借用費助成

弓道同好会 洗心会

「第45回全日本弓道遠的選手権大会」
遠征費助成

軟式野球部

沢井 椋さん

第9回日台大学軟式野球国際親善大会
日本代表選手(投手責任者)
海外遠征費助成

高澤ゼミナール

高澤ゼミナールでは、中国書道史の研究及び書の古典の臨書を中心に日々活動をしています。

三年次は、中国語で書かれた書の古典の解説書『碑帖鑑定』を教材に、担当者を決めてレジュメ発表をするとともに、全員で漢文の訓読をしながら古典に関する知識を習得し、そこで学んだことを踏まえての実技を、それぞれ隔週で行います。実技では先生自ら筆を執って筆運びなどの手解き

をして下さいます。

四年次は、年間を通して卒業制作と副論文の作成がメインになります。春セメスターには、卒業制作の題材についてのレジュメ発表を行い、夏休みから十一月までは本格的に作品制作に取り組みます。その後は副論文の作成が主な活動になり、一月後半には、卒業制作の発表の場となる卒業書作展が開催されます。

以上の活動の他にも夏と春の長期休業中には、二泊三日のゼミ合宿が行われます。夏合宿では、三年次には創緑祭のゼミ展に向けて、二作品

の三カ国の福祉制度を比較しました。その際私たちの班では、やはり完璧といえる国はまだ無く、今後長所を取り入れ合う必要があるとの結論が出ました。後期には『包摂と排除の比較政治学』を基に、包摂と排除という一見真逆に見える概念が何故両立しているのかを学びました。

「ヨーロッパの福祉」と聞くと遠い場所のまるでファンタジーの様なイメージをしてしまいましたが、実際は日本と変わらずそれぞれ違った政治が機能しているということを古賀ゼミでは完成させます。四年次には卒業制作の作成を進めます。春合宿は三年生のみが参加し、卒業制作を見据えて題材や構想を模索しながら創緑祭のゼミ展の作品を仕上げます。

ゼミの雰囲気はとても和やかではありませんが、筆を持つての授業は大変緊張感を持って臨みます。先生はゼミ生一人ひとりの個性を的確に見定め、指導して下さるので、私たちは思う存分、書道に打ち込むことができます。

中国文学科
三年 金澤 智尚



古賀ゼミナール

古賀ゼミでは最初に「自分が政治を理解していない」ということを理解すること、政治を勉強する上で最も必要なことだよ」という話がされました。おそろくその場で話を聞いていたゼミ生は皆、心の中で頷いていたと思います。二年間勉強してきて、自分が政治を理解していなかったことを思い知っていたからです。そのことを認識した上で、学生十七人による古賀ゼミが開始されました。

古賀先生は比較政治学を専門としており、関連した物事も深く理解しているため私の様な政治を上手く理解していない学生にもわかりやすく教えてくださります。今年度のゼミ内では前期と後期でそれぞれ題材の本を読んで、各々が一章毎にまとめて発表し、その発表を基にゼミ全体で討論をする、という形でした。

前期には『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』を基にオランダの雇用、福祉改革等を学び、オランダ、日本、そして福祉国家と名高いスウェーデン

の三カ国の福祉制度を比較しました。その際私たちの班では、やはり完璧といえる国はまだ無く、今後長所を取り入れ合う必要があるとの結論が出ました。後期には『包摂と排除の比較政治学』を基に、包摂と排除という一見真逆に見える概念が何故両立しているのかを学びました。

「ヨーロッパの福祉」と聞くと遠い場所のまるでファンタジーの様なイメージをしてしまいましたが、実際は日本と変わらずそれぞれ違った政治が機能しているということを古賀ゼミでは完成させます。四年次には卒業制作の作成を進めます。春合宿は三年生のみが参加し、卒業制作を見据えて題材や構想を模索しながら創緑祭のゼミ展の作品を仕上げます。

ゼミの雰囲気はとても和やかではありませんが、筆を持つての授業は大変緊張感を持って臨みます。先生はゼミ生一人ひとりの個性を的確に見定め、指導して下さるので、私たちは思う存分、書道に打ち込むことができます。

中国文学科
三年 金澤 智尚



深く知ることが出来ます。
国際政治経済学科
三年 相馬 侑生

お知らせ

平成二十七年 度父母会定期総会開催について

左記の日程により、平成二十七年
度二松學舎大学父母会定期総会を開
催いたします。

当日は講演会を予定しております。

日時・平成二十六年五月二十三日(土)
場所・九段一号館

内容・平成二十六年度事業報告並び

に決算

・平成二十七年
度事業計画並び
に予算

新二年次生、新四年次生の会員の
皆様には、平成二十七年定期総会
のご案内と出欠票(委任状)をこの
父母会報第八十八号に同封してあり
ますので、ご確認願います。

また、準備の都合上、ご出欠を同
封の出欠票(委任状)で四月二十四
日(金)までにお知らせください。

定期総会資料につきましては、五
月中旬に郵送にてお届けします。

平成27年度 地区別父母懇談会について

父母会事業計画の一環として、
毎年地区別父母懇談会を開催して
います。

平成二十七年
度の開催地は、山
形県・福島県・宮崎県・石川県・
岡山県・東京都(九段校舎)・群
馬県・山梨県・静岡県・大阪府の
10会場を予定しています(日程は
左表をご確認下さい)。

この地区別父母懇談会は、大学
の現況、履修の状況、学生生活の
状況、就職活動の支援等について

の説明があります。

全体説明終了後、個別相談を
行っています。大学への質問及び
ご意見・ご要望などを大学関係者

に直接話しができる機会です。こ
の機会をぜひご利用ください。

フリー参加形式としております
が、会員の皆様に改めて事務局よ
り開催案内をお送りし、出欠の確
認をお取りします。

万障お繰り合わせの上、ご参加
願います。

平成27年度 地区別父母懇談会日程表

開催日	開催地区
6月20日(土)	山形県(山形市)
6月21日(日)	福島県(福島市)
6月21日(日)	宮崎県(宮崎市)
6月28日(日)	石川県(金沢市)
6月28日(日)	岡山県(岡山市)
7月4日(土)	東京都(本学九段校舎)
7月19日(日)	群馬県(高崎市)
7月19日(日)	山梨県(甲府市)
7月26日(日)	静岡県(静岡市)
7月26日(日)	大阪府(大阪市)

編集後記

卒業した学生諸君、卒業おめでとう
ございます。保護者の皆様、お子
様のご卒業おめでとうございます。
そして、これから社会人となり、社
会の一員となる学生諸君のご活躍を
ご祈念致します。

今回、卒業される学生が、この大
学の門を潜った四年前に何があった
でしょうか。振り返ると、三月に東
日本大震災、その直後に長野北部地
震があり自然災害の年と言っても過
言ではありませんでした。さらに、
地上アナログからデジタルの移行も
この年でした。流行語大賞は、「な
でしこジャパン」でした。

父母会として、毎年恒例ですが、
今年度も東京の「帝国ホテル」に
て、卒業パーティーを開催し、総勢
七〇〇名(教授・役員等を含む)の
参加で、盛大なるパーティーでした。
これも、保護者の皆様方の父母会へ
のご支援の賜です。

この一年間の父母会報は、いかが
だったでしょうか。広報担当として、
より大学や学生の様子、さらに、父
母会の活動を伝えたいと頑張つてき
ました。

四月になると新たな父母会の仲間
が増えます。これからも父母会報を
よろしくお願ひします。